



北山田小だより

横浜市立北山田小学校 592-0061

「しつけ」について考える

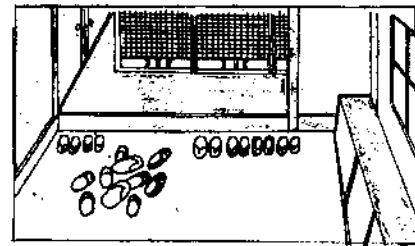
校長 中村レイ子

雨交じりのうっとうしい日が続いておりますが、保護者・地域の皆様にはお変わりございませんでしょうか。

学校では、6年生の日光修学旅行、4・5年生の愛川宿泊体験学習が無事に終わりました。日光では、6年生らしい落ち着いたまとまりを見せてくれました。愛川ふれあいの村では、2つの学年が協力して生活することができました。北山田小学校の子どもたちは、よそに出かけたときも、人に誇れるような行動が普通にとれています。とても立派だと改めて感じました。言われなくてもこんな場合はこうする方がよいといった判断力を身につけていると思っています。これは、ご家庭でのしつけの成果でもあると思います。

先日、男全富雄さんにお越しいただいて、全校の子どもたちに北山田の昔の様子をお話しいただきました。男全さんは、北山田に生まれ、北山田に育ち、北山田の変遷をずっと見守ってこられた方ですが、その知識の豊富さには感心するばかりです。お話の内容は、男全さんが記された「地域と学校」という小冊子にまとめられています。この小冊子は、男全さんのご厚意で、全校児童に配布されていますが、もうお目通しいただきましたでしょうか。一説をご紹介します。

お家ではもちろんそうですが、友達の家に行ったときも、玄関で履物をぬぐるとき、かならず外を向けそろえておきましょう。かえるとき、安心して履けます。履物をそろえておくのは、自分のためです。家の玄関を整理すると気持ちがおちつきます。履物のぬぎ方により、人の性質が分るといわれます。・・・



(文・絵：男全 富雄さん)

私たちが忘れかけている「しつけ」に関する記述が随所に見られます。表面に現れた行為から、その人の性質まで分かる、「しつけ」とは、そのようなものだと思います。

つい最近、「小学生までに身につける子どもの作法」という本を読みました。書評に、「この本は、まず大人に読ませたい。」とありましたが、この本の著者は、「作法は、人を幸せに導くお守り。時と場に応じて作法を実践すれば、誰からも愛され大切にされる人になれる。」と提言し、「大人は知っていることは子どもにしつけられる。だが、知らないことはしつけられない。だから大人は、自らのしつけの容積を広げることが大事なのだ。」とも語っています。「作法」「しつけ」というと、ややもすると古めかしい響きを受けるかもしれませんが、人間関係や社会生活を円滑にする潤滑油のようなもので、その人間の「人となり」「考え方」そのものなのではないでしょうか。

小学校で学ぶことは、多岐にわたっています。教科学習だけでなく、人間として社会人として社会生活を営む上で身につけるべき基本的な事柄を集団の中で学びます。そして、この時期を逃すと身につけることが難しくなる事柄がたくさんあります。「しつけ」もその一つだと思います。もうすぐ夏休み、子どもたちにとって潤滑油「しつけ」を補給する良い機会です。子どもたちは、どんな場面でどんなことをしつけられ、大人は子どもたちに、どんなことをどれだけしつけられるか、再確認する良い機会ともいえます。皆様の各ご家庭では、何を・・・。